［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

評価確定日　平成19年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4570102956
法人名	有限会社 サカイコーポレーション
事業所名	グループホーム 楓
所在地	宮崎市郡司分甲1570番地1 （電 話）0985―56―2277

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年5月28日

【情報提供票より】（平成19年 5月 1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人，非常勤 4 人，常勤換算 6．43	

（2）建物概要

建物構造	木造 平屋 造り
	1 階建ての 1 階 ～ 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	35,000 円		その他の経費（月額）	0 円
敷 金	有（ 円）		❍無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（ 円） ❍無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1，000円			

（4）利用者の概要（ 5月 1日現在）

利用者人数		8 名	男性 4 名		女性 4 名
要介護1		2 名	要介護2		2 名
要介護3		2 名	要介護4		1 名
要介護5		1 名	要支援2		名
年齢	平均	89.75 歳	最低 78 歳		最高 99 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	南部病院 日高医院 野崎病院 谷村整形外科医院 山内ファミリークリニック おおにし消化医院 宮崎善

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

常勤職員6人中、看護職員が3人おり、日々の健康管理やホームドクター、家族との情報交換が取りやすい体制である。利用者は安心して生活していくことができる。また家族にとっても安心して任せること ができる。周りが田んぼで人家が離れているが、敷地内の菜園を利用して家族や地元の人が訪ねやすくなっている。また、運営推進会議が充実しており、夏祭りやボランティアの訪問など地域活動が広がってきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の評価結果について全体会で話し合い、ケアに活かしている。入居者の一人ひとりの希望や意向を引き出し、入居者の希望に 添った日常のレクレーション、趣味活動につなげている。訪問時玄関 は網戸だけでチャイムと見守りをする事で、鍵をかけない工夫がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価、外部評価の意義を十分に理解し、評価を日常の介護の質の向上に 役立てようとしている。全職員で自己評価に取り組んだことから、オムツの課題に取り組み、ケアの改善に活かしている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議をほぼ2ヶ月に1回実施している。運営推進会議に地区の民生委員の参加があり、地区の夏祭り取り組みに参加したことから、地区の行事への参加の糸口となっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族会をつくっている。家族会には市の相談員も出席してもらっている。家族から直接に苦情等はないが、家族への連絡はどんなさいなことでもするよう心がけており、家族の連絡先も壁にはり職員ならだれでも見られるようにしている。家族も長期に留守にする時に連絡をくれたりする。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 周りが田んぼで人家は少し離れているが、食材の購入は、地元の小売店やスーパーを利用している。いつも利用する魚屋さんがホームの夏祭りに家族で参加してくれたり、買い物中に大学の先生と懇意になり学生のボランティアの参加につながったりしている。

2. 評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	両親の看取りのこともあり、事業を立ち上げた経緯がある。理念の中に地域との関係づくりを位置づけ、運営推進会議の活用、またボランティアの受け入れに取り組んでいる。ボランティアについては、積極的な参加がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「入居者を第一に、寄り添って、残存機能を生かしながら、さりげない介護」を心がけている。職員の全体会を月1度開催し、ほとんど全員出席である。理念はあちこちの壁に張ってありいつでも確認することができるように工夫している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で自治会民生委員より地区の夏祭りについてホームを休憩場所とする提案があり、これを契機に地区との交流が広がっている。地元の魚屋で買い物をするが、夏祭りに魚屋さんの家族の姿があり、またその魚屋で買い物中に近隣の大学の先生と出会い、学生のボランティア活動を要請するなど活動が広がって		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることにより、仕事の整理やケアの改善に役立てている。具体的には自己評価をする中でオムツのことが課題となり研修を重ね、排泄の介護がしやすくなり、入居者も身軽になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はほぼ2ヶ月に1回実施している。地区民生委員などの参加があり、地区との交わりをもっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の職員は運営推進会議には常時出席していないが、当施設は開設して間がないので相談には乗ってもらい、適切なアドバイスを受けている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回新聞を発行している。週末にはよく家族の方の訪問があり、その機会を利用して、健康状態など報告している。お金をあずかって、趣味の道具(習字の半紙や墨)に使用している。		
8	15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を作っており、家族会に市の相談員も出席している。介護相談員の来所日を玄関に掲示して相談の機会を作っている。家族の面会時にコミュニケーションをとるようにして相談しやすい雰囲気をつくっている。		
9	18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を採用するときはグループホームの経験者を採用している。また採用時にグループホームの特徴についてオリエンテーションを行っている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ研修に参加するようにしており、研修会に参加したら全体会で報告している。施設内トレーニングとして全体会で入居者一人ひとりの個別ケアについて話し合っている。また上下肢の訓練や皮膚のトラブルについて研修をしている。		
11	20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加している。そこで研修と同業者としての交流がある。他グループホームの見学を受け入れており、また施設への見学も積極的におこなっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は家族と本人でまず見学をしてもらい、ホームの雰囲気を知ってもらうようにしている。なじみの家具の持ち込みや写真を飾ったりしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者それぞれの得意分野を活かして、料理、花の世話、習字や芋掘りなどいろいろ手伝ってもらっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居開始時は、入居者本人の意向に任せた生活をしてもらい、状況の把握をすることから始めている。利用者同士の会話の記録からも情報収集し、意向の把握をしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向をとりいれ、全体会で意見を出しあい介護計画を作成している。新入居の場合は、前施設の状況も把握して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新入居者の当初については3月ごとにケアプランの見直しを行っている。又入居者の日々の行動をよく観察し変更が必要だと思われた時はスタッフ、家族、ホームドクター、の意見を取り入れ変更をしている。素早い対応がなされている。	○	新入居者に限らず、状態の変化のない場合にも3ヶ月に1回は、見直しを行ってほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの家庭菜園を通して利用者の家族とのつながりや、ボランティアによる習字活動を行っている。	○	地域の認知症のケアの拠点として、相談受け入れや支援を検討してほしい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターに月に1～2度往診をしてもらっている。かかりつけ医には家族が連れていっている。夜間急病時には家族に連絡をとり、主治医には事前に急病時には他の病院に受診する許可をとっているので、早急に対処することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と話し合いをおこない、又家族会開催時にも終末期医療について話をしている。	○	職員間において、終末期の支援のあり方について共有を図ってほしい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録など個人情報は事務所で保管している。職員の全体会で個人の尊厳を大切にした入居者への話しかけ方について話し合いをもっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の立場にたち本人の意向に添ったサービスをこころがけている。朝の散歩、体操、歌、テレビ、習字などで希望に応じて実施する。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで作った新鮮な野菜を食材に利用している。食事の準備、食事、後かたづけと職員、入居者が一緒に楽しみながら、教えられながら実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日毎に交代して入浴している。順番はその日の状態により利用者と職員が声をかけあって決めている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人にあった役割をしてもらっている、例えば、元調理に携わっていた人には調理の手助けを、習字の上手な人に習字の手助け、菜園で収穫した野菜の処理、料理法など一人ひとりの役割を活かして協同して生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内庭の菜園へ散歩に出たり、収穫をする。ホームの周りの散策、スーパーへの買い物などをしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない。訪問時玄関は網戸だった。見守りと出入り口のチャイムで対処している。	○	今後も鍵をかけない意識を高く持ち続けてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警察や、消防の指導のもと、避難訓練を行っている。居室は、掃き出し窓で床も低くしてあり、避難しやすくしてある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握している。献立は、栄養士に栄養計算してもらっており、バランスよい食事内容になっている。水分補給には注意を払い、3度の食事にはかならず吸い物、飲み物をつける。10時、3時のおやつ時にも必ず飲み物をつけている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花など絶やさないようにしている。夏祭りですくった金魚が元気に泳いでいる。室内に季節感を出すよう、ひな人形、鯉のぼり等の展示につとめている。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごしてもらうために室内に昔の写真や家族の写真を置いたり、寄せ書きを張ったり、また使いなれた家具を置いたりしている。入り口に自分たちで作った表札をかけている。		